

第4回取手市自転車活用推進会議 議事録

1. 開催日時 令和5年2月2日(木) 10:00~12:00

2. 開催場所 取手ウェルネスプラザ セミナールーム

3. 推進会議委員

(敬称略)

No.	委員役職	所属組織	所属組織役職	委員氏名
1	会長	取手市バイコロジー運動推進協議会	会長	小嶋 吉浩
2	副会長	筑波大学	教授	岡本 直久
3		自転車ツーキニスト		疋田 智
4		取手市小中学校 PTA 連絡協議会	参事	角田 知巳
5		取手市商工会	女性部長	成島 久美子
6		取手警察署	交通課長	櫻井 敦
7		取手市スポーツ協会サイクル部	部長	蛭原 茂夫
8		日本競輪選手会茨城支部		戸邊 裕将
9		茨城県自転車競技連盟	理事	北見 裕史
10		東日本旅客鉄道(株)	取手駅長	吉田 征行
11		関東鉄道(株)	取締役鉄道部長	北村 恵喜
12		取手市議会	議員	染谷 和博
13		国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所 守谷出張所	出張所長	野原 賢一
14		国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所 取手出張所	出張所長	作左部 敏幸
15		国土交通省関東地方整備局下館河川事務所	調査課長	大野 光秀
16		茨城県スポーツ推進課	課長	石原 均
17		茨城県竜ヶ崎工事事務所	道路整備第二課長	中嶋 克寿
18		茨城県自転車競技事務所	所長	山本 辰夫
19		取手市	副市長	吉田 雅弘

4. 出席者

委員

(敬称略)

No.	委員役職	所属組織	所属組織役職	委員氏名
1	会長	取手市バイコロジー運動推進協議会	会長	小嶋 吉浩
2	副会長	筑波大学	教授	岡本 直久
3		自転車ツーキニスト		疋田 智
4		取手市商工会	女性部長	成島 久美子
5		取手警察署	交通課長	櫻井 敦
6		取手市スポーツ協会サイクル部	部長	蛭原 茂夫
7		日本競輪選手会茨城支部		戸邊 裕将
8		東日本旅客鉄道(株)	取手駅長	吉田 征行
9		関東鉄道(株)	取締役鉄道部長	北村 恵喜
10		取手市議会	議員	染谷 和博
11		国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所 守谷出張所	出張所長	野原 賢一
12		国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所 取手出張所	出張所長	作左部 敏幸
13		国土交通省関東地方整備局下館河川事務所	調査課長	大野 光秀
14		茨城県スポーツ推進課	課長	石原 均
15		茨城県竜ヶ崎工事事務所	道路整備第二課長	中嶋 克寿
16		茨城県自転車競技事務所	所長	山本 辰夫
17		取手市	副市長	吉田 雅弘

事務局

1		取手市まちづくり振興部	部長	野口 昇	
2		取手市まちづくり振興部 産業振興課	課長	数藤 弘人	
3		取手市まちづくり振興部 産業振興課	課長補佐	吉田 宏	
4		取手市まちづくり振興部 産業振興課	主事	廣瀬 唯	

5. 会議の定足数等、会議の成立に関する事項

取手市自転車活用推進会議設置要綱第6条第2項及び4項の規定により、委員17名の出席をもって、本会議は成立する。

6. 会議及び会議録の公開又は非公開の別

取手市自転車活用推進会議の会議及び会議録については、取手市自転車活用推進会議設置要綱第6条第6項及び「取手市審議会等の会議の公開・会議録の作成に関するガイドライン（令和3年4月1日施行）」に基づき、原則として公開する。

7. 議事内容

取手市自転車活用推進計画 計画書（案）について

①施策目標1 安全安心

〔委員発言内容〕

○委員

ヘルメット着用については、今年の4月1日から努力義務化されることが大きな変化になると思われます。警察でも公式のヘルメットが使用されることが決まっています、街の景観も変わるでしょう。その中において、取手市としても何らかの道筋を示す必要があり、いかに啓発するかが重要です。ですから、計画書にある「ドカヘル（作業用保護帽）をやめる」という内容は非常に良いと思います。

ヘルメット着用を進めるにあたり、重要なのが小中高生のほかに子育て中の母親へ普及させることです。これが非常に難しく、かつての「ラッタッタブーム」も、原動付自転車のヘルメット着用が義務化されたことにより、女性が乗らなくなりブームが終息しました。また、自転車乗車時のヘルメット着用を義務化しているオーストラリアやニュージーランドでは、女性が自転車に乗っている姿は見かけないのです。日本の交通事情を考慮すると、自転車専用道を整備して、ヘルメットがなくとも安全に自転車に乗れるというのは難しいことですので、ヘルメット着用を推進することが重要だと思います。

○事務局

ヘルメット着用推進について補足ですが、市内の自転車通学が多い中学校において、既にヘルメットの見直しが予定されているとのこと。しかし、以前会議で出たようなサイクリング用のものではなく、現行のヘルメットに通気性が向上するような仕様になると聞いております。その辺りの実情も考慮し、計画書記載の表現については一部見直すことを検討しております。加えて、先程ご説明いただいたヘルメットの着用により髪が乱れることに抵抗感を多く感じられる女性や子育て中の母親等へのヘルメット着用の意識向上についての文言追加を検討していきたいと思っております。

○委員

ヘルメットのデザインは統一されるのでしょうか。着用率を上げるためには、多少高価かもしれませんが、デザインが選べるものが良いのではないかと思います。

○事務局

学校のヘルメットの仕様は、学校関係者やPTAが選定しているものと聞いております。おそらく大量購入により安価となることや、各家庭の諸事情等により、デザインは統一されると考えられますが、市としては、委員のご意見も参考にしつつ、ヘルメット着用向上の取り組みを進めていきたい思います。

○委員

災害時の自転車活用について、どのように活用するなどの予定はあるのですか。

○事務局

現状は導入検討の段階であり、担当課の安全安心対策課とも協議しながら具体的な活用は、先進事例を参考に今後検討していきます。

○委員

自転車の点検について、地元の自転車屋は少なく、量販店で購入した場合は買ったままになっている場合も多いため、点検の普及は難しいのではないのでしょうか。

○事務局

まずは自転車を持っている人に向けて、危機意識を持ってもらえるよう啓発し、定期的な点検を普及させる方法を検討していきたいと考えています。

○委員

女性のヘルメット着用に課題が多いというお話でしたら、茨城県的女子競輪選手が4名おりますので、ぜひPRに協力させていただければと思います。

○副会長

最初の取り組みとして、高価なヘルメットの導入などは難しい部分もあると思います。例えば、ヘルメットのデザインコンテストをやってみる等の小さな取り組みからでも、様々な取り組みが重なることでヘルメット着用意識が向上すると思います。

②施策目標2 観光振興

[委員発言内容]

○委員

堤防沿いは、土日はもとより、平日も一定数サイクリングをしている人を見かけるので、利根川と小貝川が一続きで整備されれば、よりサイクリングが普及すると思います。しかし、実際に整備するとなれば国等との調整も必要となり時間がかかるのが実情です。

○委員

平成20年頃の小貝川サイクリングロードの整備に際しては、下館河川事務所も協

力させていただきました。今後についても、小貝川と鬼怒川沿いの整備について、リバースポット等含め市と連携して検討していきたいと考えています。

○委員

6月の上旬にモデルコース試乗会に参加させていただきましたが、利根川小貝川沿いのコースはとても魅力的だと思いました。一方で、茨城県は県全体として自転車活用の推進に力を入れていて、霞ヶ浦近辺やつくばりんりんロードと比較すると、道路等のインフラ整備面で劣ってしまいます。そうすると、キャラクターやSNSの活用等で誘客を図ることで、「取手ならではの」の要素を創り出すことが良いと思います。競輪場の「バンクくん」は動きが付けにくいので、例えば地元で漫画家等がいれば自転車に乗る女の子をキャラクター化するなど面白いと思います。

○委員

レンタサイクルが取手駅前のサイクルステーションとりで(CST)辺りにもあると良いのではないかと思います。

○事務局

計画を進めていく上で、今後の可能性としては検討していきたいと考えております。

○委員

サイクルバスについて、コミュニティバスでの導入はどうか。

○事務局

サイクルバスについても、現状はあくまで導入検討段階であり、今後計画を進めていく中で可能性があれば検討に含めたいと思います。

○副会長

今のコミュニティバスは自転車を積載するとなると容量的に難しいと思うので、コミュニティバスをサイクルバスにしなくても良いのではないかと思います。むしろ、その移動を自転車にする方が望ましいと思います。

○委員

関東鉄道では、水海道駅から下館駅の間でサイクリトレインを導入しています。計画書上では、検討に5年を要する予定となっていますが、5年をかけずともできるものもあると思います。

○事務局

公共交通機関との連携強化の事業について、総合的に考えて5年ということのように記載しております。もちろん、早期に進められるものは順に形にしていきたいと考えております。

○委員

レンタサイクル機能の部分で、境町ではシェアサイクルを活用している例があります。シェアサイクルであれば、乗り捨てが可能で利便性が高く、電子マネー対応の

ものなど若年層に普及することが期待できると思います。境町には隈研吾氏の建築物もあり、観光として参考にできる部分もあると思います。導入するのであれば、電動アシスト付自転車など機能的なもので、かつ見た目も良いものであれば、SNS映えも期待できると思います。また、サイクリストの方が喜ぶような飲食店のメニューや、自転車にまつわるパワースポット等もあれば、更に誘客できるのではないかと思います。

○事務局

シェアサイクルについては、ご意見いただいた境町をはじめ、全国的にも導入事例が増えており、好事例も多くあります。本市においても導入検討していきたいと思えます。また、同時に取手の魅力を気軽に体験してもらえような内容を考えていきたいと思えます。

○委員

取手市にも隈研吾氏の建築物があるのはご存じですか。県南防災センターが隈研吾氏の建築ですので、皆さまぜひ行ってみてください。

○副会長

霞ヶ浦近辺やつくばりんりんロードと差別化を図るのであれば、ターゲットを分けることが効果的だと考えます。例えば、取手市には坂が多いので、坂道を活かしてスポーツ性を持たせる等、コアな層を狙った取り組みが良いのではないかと思います。その上で、サイクリングマップにも坂道の情報は細かく記載すると良いです。

○委員

利根川サイクルステーション以外にも、取手駅周辺に起点となるものがあると良いと思いました。

○会長

秋に利根川の河川敷で河川まつりが行われた際、バイコロジー協議会で自転車の体験を実施しました。電動アシスト自転車とタンデム自転車が非常に人気で、様々な人が楽しめる自転車であることを再認識しました。

③施策目標3 健康増進

〔委員発言内容〕

○副会長

サイクリングマップの部分で、健康増進の要素もマップに盛り込むのであれば、健康づくり推進課も担当に入れた方が良いと思えます。

○事務局

そのようにいたします。

④施策目標 4 環境整備

〔委員発言内容〕

○委員

駐輪環境の整備について、市内の店舗等にサイクルラックがあると、ロードバイクに乗るようなサイクリストの方も立ち寄りやすく、誘客につながると思います。

○委員

公共交通機関との連携について、計画スケジュールの検討期間が5年となっています。過去の会議でゆめみ野駅の駐輪場の話が出たと思いますが、この駐輪場の整備も5年かかってしまうということでしょうか。

○事務局

早期に進められるものがあれば進めていきたいのですが、ハード面の整備はハードルが高く、全体的に検討期間を含め、5年としています。

○委員

通行空間の整備について、例えば「取手駅まであと何キロ」のような表示をする際には、加えて「自転車は何キロカロリー消費」等の情報も入れてほしいです。これはやっているところがほとんどないはずなので、取手市オリジナルになります。更に、「電動アシスト付自転車では何キロカロリー消費」などがあると、意外と電動アシスト自転車でも運動になるんだなということで、自転車がより身近になると思います。

○委員

県のサイクリングロード整備を経験した立場から申し上げますと、自転車に乗る人も自転車の種類も様々ですので、すべての人が安全に快適に自転車に乗れる道路というのは非常に難しく、課題であると考えています。

○副会長

サイクリング中の故障に対応できるポイントのようなものの整備も必要であると考えます。

○事務局

現在取手市内にも、自転車の空気入れを設置しているコンビニエンスストア等もあるのですが、まだ数は少ないです。今後増やしていけるよう、検討していきたいと思います。

⑤自転車ネットワーク路線

〔委員発言内容〕

○委員

日常利用のネットワーク路線と観光のためのネットワーク路線では、インフラ整備の方法の違いはあるのでしょうか。

○事務局

基本的に、整備方法に違いはございません。

○委員

ネットワーク路線の整備にあたり、優先順位はあるのでしょうか。

○事務局

優先順位については、道路建設および整備担当課とも協議しながら検討していく内容のため、本計画において区域や路線の指定はしておりますが、優先順位については定めておりません。

○副会長

日常利用のネットワーク路線で、現在開発予定とされている桑原のショッピングセンターへは繋がらないのでしょうか。

○事務局

ネットワーク路線についても、計画を進めていく中でその時の市内の状況や実態に応じて見直ししていく予定です。